

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で検討し、誰が見てもしっかりしやすいものにした。 見易い場所に掲示している。 | 理念については来訪者の目にふれるよう玄関と廊下の壁に掲示している。「あじや〜ね〜」の理念の説明は3ヶ月に1回発行される「かぞく広報」の中でお知らせし家族会等に理解をいただくようになっている。職員で話し合っただけの理念でもあり「ここに居れば何にも心配することはない」という理念の主旨を良く理解し日々の支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍の為、地域との交流はほとんどない。地域の方から野菜等をいただく事が有る。 | 開設以来、自治会費を納め地域の一員として活動している。昨年春以降の新型コロナの影響を受け、全ての地域行事が取りやめになり地域との交流が少ない状況が続いており残念に思っている。収束後はまた積極的に活動を行う予定である。そのような中、短大生の職場実習の来訪があり、10日間、傾聴、入浴介助等、介護全般にわたり利用者と接し、交流の時を過ごしたという。また、近所の住民より野菜苗、野菜の差し入れを沢山頂き、畑の栽培や食事に役立っている。合わせて散歩の際には近くの保育園児と親しく挨拶を交わしながら楽しんでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在特に行っていない。 施設の事を知ってもらう為に広報誌を作成し、全戸配布やショッピングセンター内情報発信コーナーに置かせてもらっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議で出された意見を職員会議で報告し、サービス向上に活かしている。 | 例年であれば家族代表、区長、民生委員、役場保健福祉課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催しているが、昨年春以降コロナの影響を受け8月までは書面での開催をなり、運営状況や行事の報告、ケア報告、前回の意見等を書面にし広報誌「かぞく広報」と共にお届けし意見を頂き、サービスの向上に繋げている。コロナ感染の落ち着きにより、10月より対面での運営推進会議が再開されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業所連絡会議に参加している。 | コロナ禍であるが村内6事業所の事業所連絡会議は行われ、コロナの感染対策等について意見交換が行われ参考にしている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪して行われ、家族から事前にお聞きした要望等については職員が話をしている。 | |

グループホームかぞく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中玄関の施錠は行っていない。 身体拘束をしないケアにとりくんでいる。 | 方針として拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されドアの開閉に合わせてチャイム音が知らせてくれるようになってきている。入居1年以内の利用者が夕方になると帰宅の想いが強くなるが、職員が付き添い優しく話を窺うことで対応している。トイレ介助時に転倒危惧のある方がおり、人感センサーを使用している。日中は殆どの利用者がフリースペースで過ごしているので、出来るだけ小まめな所在確認を行っている。また、月1回のカンファレンスの席上で拘束についての話し合いを行い、拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 活用できる体制は整っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時等に意見を聞いている。 出された意見は、会議の際に報告している。 | 意思表示の難しい方が2名おり、表情や日常会話の中から要望を引き出しそれに沿えるよう取り組んでいる。家族の面会はコロナの感染状況の落ち着き受け、10月中旬より事前予約を頂き、ワクチン2回接種済みを基準として当日体調が良いことを確認の上、玄関で15分位の面会を再開した。年2回、家族同士のふれあいの場として家族会を開催していたが、コロナの影響を受け中止の状況が続き残念に思っている。そのような中、ホームの様子については3ヶ月に1回発行される広報誌「かぞく広報」でお知らせし、利用者一人ひとりの様子は毎月の行事報告に写真を添え、請求書に同封し届け、喜ばれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議の際に職員からの提案や意見を聞き、検討している。 | 月1回職員会議を行い、運営全体、行事検討、カンファレンス、意見交換等を行い業務改善に繋げている。また、職員は年間目標を設け、それに従い年1回年末に施設長による個人面談を行い振り返りの時を持ち職員一人ひとりの業務改善、サービスの質の向上について話し合い、モラールアップに繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の意見を聞き出来る所は改善している。 | | |

グループホームかぞく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | コロナ禍の為、研修は行っていない。情報は掲示している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍の為、交流する機会がない。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人から聞く事が難しく、家族から聞く事が多い。日々の会話の中から思いを聞くように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族と話す時間を作っている。面会時等に話を聞くようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一緒に食事作りを行ったり、洗濯物をたたんだり、出来る事をしてもらっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 築けるよう努めているが、入所後面会が途絶えてしまう家族もいる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍の為、面会が制限されている。関係が続くようには考えるが支援することは少ない。 | 例年であれば親戚やお孫さんの面会があるが現在はコロナ禍のため中止している。ホームの電話を使用して家族と連絡を取り合っている方が数名いる。年末に向け今年も一人ひとり年賀状を職員と共に作成し家族に郵送する予定で、昨年も家族に好評であったという。理美容についてはコロナ禍を考慮し手先が器用な職員が定期的に行っている。 | |

グループホームかぞく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている | 気の合う利用者同士が会話できるよう支援 している。職員を介して利用者同士が会話 できるように支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所や他の施設へ入所により関係が終了し てしまう事が多い。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている | 利用者との会話の中で出た思いを記録し検 討している。 | 介護度が軽く元気な利用者が多く、日々の介護が押 し付けにならないよう心掛けている。また、食べたい 物や入浴等の希望は本人に確認し、希望に沿えるよ う支援に取り組んでいる。入浴時など、1対1で話をす る中で気づいた事柄については個人記録に纏め、職 員は出勤時に確認して業務に入るように徹底してい る。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている | 家族からの話を聞いたり、利用者との会話 を記録し、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている | 個別の記録を読み、把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している | 職員全体で意見を出し検討している。 | 職員は1～2名の利用者を担当し、家族との連絡、受 診付き添い、必要な物品の管理、プラン更新時の見 直し等を行い、担当する利用者のみでなく全利用者 の状況を把握するように心掛けている。家族には1ヶ 月の様子を手紙で知らせ、来訪時に希望をお聞きし ている。カンファレンスでは職員全員で意見を出し合 い、また、モニタリングも行い、ケアマネージャーがプ ラン作成を行っている。入居時は家族からお聞きした 情報も参考に暫定プランを作成し3ヶ月間様子を見て 本プラン作成に繋げ、3ヶ月毎のカンファレンスで評価 を行い、状況に変化が無ければ6ヶ月での見直しとな り、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行 い、一人ひとりに合った支援に繋げている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録を行い、共有している。 | | |

グループホームかぞく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々の生活の中で取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域に協力を依頼している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月に一度定期健診が有り、利用者の様子を診てもらっている。利用者に何かあった時は連絡し指示を受けたり、受診の支援をしている。 | 利用契約時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての対応も説明している。現在は全利用者がホーム協力医の月1回の往診で対応しており、24時間のオンコール対応となっている。また、常勤看護師が2名おり利用者の健康管理を日々行い、医師との連携も取り万全な医療体制を整えている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が勤務している日に、利用者の体調等相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 情報提供を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時、面会で確認しているが、状況が変わる度に話し合いを行っている。事業所で出来る事を説明し、納得してもらっている。 | 重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。食事が摂れない等の状況になり終末期に到った時には家族と共に医師の元に出向き話し合いを行い、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り支援同意書にサインを頂き看取り支援に入っている。この1年以内に3名の看取りを行い、コロナ禍であるが家族には居室で最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、看取り中はきめ細かな支援に心掛け、口元にガーゼを当て水分を取っていただくようにしている。看取り後にはカンファレンスの席上で振り返りの機会を持ち、次回に繋げるよう全職員が気持ちを一つにし支援に当れるようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命講習を受講している。 | | |

グループホームかぞく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 職員全員が参加できるように、数回に分けて避難訓練を行った。 地域に協力を依頼している。 | コロナ禍により9月にホーム内のみで行い、職員全員が参加できるように出勤職員と利用者全員参加で4回に分けて地震想定避難訓練を行った。利用者は防災頭巾をかぶり、職員はヘルメットを装着して駐車場まで移動しての訓練を実施した。また、10月には地区の防災役員7名が来訪し、建物の周囲の確認と利用者の状況確認を行い地域との連携を深めている。合わせてスマートフォンのLINEを用い、緊急連絡網の一斉配信の訓練も行っている。備蓄については通常、食糧1週間分と石油ストーブが準備されている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉使いや大声をださないように注意している。利用者の前で、プライバシーに関する発言をしないようにしている。 | 言葉遣いには気配りをし、親しみを込め方言なども交えながら優しい声掛けをしている。耳の不自由な利用者に対しては「ハッキリ」とした言葉で話しかけるよう徹底し、気持ち良く過ごしていただけるように努めている。また、利用者の前では他の利用者の話しはしないよう心掛けている。声掛けは苗字を「さん」付けでお呼びし、入室の際にも「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れないよう徹底している。職員会議の席上、事例を上げて話し合い、プライバシーに配慮した支援に繋げている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言葉が出ない利用者に対しても、うなずき等で思いを汲み取るよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人のペースを大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に食事作りや片付けを行っている。食べたいものを聞いてそれを作る事も有る。 | 全利用者が自力で食事が出来る状況である。通常は利用者と共に話をしながら食事の時間を過ごしているが、現在はコロナ禍であり別々の席での食事になり残念な状況が続いており、新型コロナの収束が望まれるところとなっている。献立は何を食べたいか希望を聞き、家庭料理を基本に内容を毎日記録に残し、前日と重ならないようにし、魚、肉、野菜などのバランスを考えた料理を提供している。お手伝いについては力量に合わせ、野菜の処理から盛り付け、後片付けまで、楽しみながら参加していただいている。年末年始、お彼岸等には季節の料理を提供し、季節感も味わっていただいている。 | |

グループホームかぞく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取量の少ない利用者には、高カロリーの食品を提供している。特に水分量には気を付けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。義歯の洗浄・消毒を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 出来るだけトイレで排泄できるように支援している。 | 自立の方若干名で、他の多くの方は一部介助という状況である。トイレに行く回数が多い方については排泄表にその都度記録を残し、状況を共有するよう努めている。職員は利用者のパターンを把握しており、定時の誘導に合わせ一人ひとりの様子を見て、「そわそわ」し落ち着かない仕草の時にはトイレ誘導を行っている。排便については排泄記録に従い声掛けを行いトイレにお誘いしている。一人ひとりの状況に合わせ3日間排便がない場合には排便コントロールを行い、出来るだけ多くの水分を摂取していただき排便に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | こまめな水分補給を心掛けている。車椅子の利用者もおり、薬を服用することが多い。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 本人の希望を聞いている。安全に入浴することができ、楽しい時間になるように支援している。 | 見守りで自立の方が若干名、一部介助の方が三分の一、リフト浴使用の方が半数強という状況である。基本的に週2~3回の入浴を行っている。入浴拒否の方も数名いるが無理強いことなく、日を変えたりして入っていたくようにしている。入浴剤を使用し、「ゆず湯」「菖蒲湯」等で季節感も楽しんでいる。また、入浴後にはリンゴジュース、コーヒー、紅茶等の飲み物も楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の状態を把握し、支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事の下拵えを手伝ってもらったり、出来る事をしてもらっている。 | | |

グループホームかぞく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍の為、外出の機会は減っている。本人の希望に沿った支援はなかなかできていない。 | ホーム内では自分で歩けるが、外出時、自力歩行の方が若干名、他の大半の方が車いす使用となっている。天気の良い日には近くの小学校まで散歩したり、ホームの畑に出て収穫等を行っている。コロナ禍で外出が難しい状況が続いているが、11月より地域のスーパーへの買い物同行や少人数に別れてのドライブを兼ねた紅葉見物などに出掛けている。一日でも早くコロナが収束し、以前の様に年間を通し外出レクリエーションが行えることを利用者・職員共に待ち望んでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を管理できる利用者は入所していない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙のやり取りは無いが、希望時には電話が掛けられるように支援している。タブレット端末を使ったテレビ電話を始めた。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や写真、利用者の作品を飾っている。 | 中央アルプスの山々を望むホーム南側には綺麗に整備されたホームの畑と庭があり、利用者の寛ぎのスペースとなっている。玄関を入ると季節に合わせた「花」が飾られている。廊下の壁には人数分のヘルメットと持ち出し袋が掛けられ防災意識の高さを感じられる。陽当たりが良く天井が高いフリースペースは開放感があり、ゆったりとした雰囲気が漂っている。そのような中で利用者は思い思いの日々を送っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファで過ごしたり、気の合った利用者同士と一緒に過ごせるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた身の回り品を持ち込んでもらっている。 | 整理整頓が行き届き清潔感漂う居室には広い整理棚が設けられ、テレビや衣装ケース、家族の写真等が置かれ、暮らし易いよう自由にレイアウトされている。壁には自分の作品や職員から贈られた敬老会・誕生日のお祝い色紙等が飾られ、利用者一人ひとりが心地よく過ごせるようになっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下に物や車椅子を置かないようにしている。 | | |